

一般社団法人大学英語教育学会(JACET)

第 29 回（2013 年）中部支部大会プログラム

大会テーマ

レトリックからみた英語教育

ーグローバルコミュニケーション能力の育成ー

English Education Viewed from Rhetorical Perspectives:
Development of Global Communication Abilities

平成 25 年 6 月 1 日（土）

開会時間：午前 10 時 30 分



開催場所：岐阜聖徳学園大学

〒500-8288 岐阜県岐阜市中鶉1-38

一般社団法人 大学英語教育学会(JACET)

第 29 回(2013 年度)中部支部大会

レトリックからみた英語教育－グローバルコミュニケーション能力の育成－

English Education Viewed from Rhetorical Perspectives:
Development of Global Communication Abilities

一般社団法人大学英語教育学会 (JACET) 第 29 回 (2013 年) 中部支部大会

- 日 時 : 2013 年 6 月 1 日 (土) 10 : 30-17 : 10
- 会 場 : 岐阜聖徳学園大学 (岐阜キャンパス)
〒500-8288 岐阜県岐阜市中鶯 1-38 電話 : 058-278-0711 (代)
- 受 付 : 10 : 00~ 3 号館 1 階 大教室ホール
- 大会本部 : 336 演習室 (3 号館 3 階)
- 発表者控室 : 313 演習室 (3 号館 1 階)
- 会員休憩室 : 433 演習室および 434 演習室 (4 号館 3 階)

●プログラム

- 10 : 30-10 : 45 開会行事 310 講義室 (3 号館 1 階)
司 会 倉橋洋子 (東海学園大学)
支部長挨拶 大石晴美 (岐阜聖徳学園大学)
開催校代表挨拶 宮川典之 (岐阜聖徳学園大学大学院 国際文化研究科長)
- 10 : 50-12 : 30 研究発表 3 号館 1 階
(第 1 室[333 講義室], 第 2 室[334 講義室], 第 3 室[337 講義室])
- 12 : 30-13 : 40 昼食休憩
- 12 : 40-13 : 30 中部支部役員会 336 演習室 (3 号館 3 階)
- 13 : 40-14 : 00 支部総会 310 講義室 (3 号館 1 階)
- 14 : 10-15 : 10 特別講演 同上
- 15 : 20-17 : 00 シンポジウム 同上
- 17 : 00-17 : 10 閉会の辞 同上

17 : 15- 懇親会 学生会館 食堂

後援 岐阜県教育委員会

研究発表 10:50-12:30

第1室 (3号館3階333講義室)

10:50-11:20

司会 鈴木達也 (南山大学)

留学時のスピーキング活動における動機付の保持と促進——大学生 JEFL 学習者を対象に (p. 4)

三上仁志 (名古屋大学大学院生)

11:25-11:55

司会 鈴木達也 (南山大学)

留学を通じた日本人英語学習者の英語 WTC (Willingness to Communicate) の変化——限定的社交行動が WTC 及び英語使用に与える影響 (p. 5)

三島恵理子 (中部大学大学院生)

12:00-12:30

司会 伊東田恵 (豊田工業大学)

Towards a Japanese Language Portfolio (p. 4)

Paul Wicking (Meijo University)

第2室 (3号館3階334講義室)

10:50-11:20

司会 藤原康弘 (愛知教育大学)

Designing and Creating a Variety of Classroom Materials (p. 5)

John Spiri (Gifu Shotoku Gakuen University)

11:25-11:55

司会 藤原康弘 (愛知教育大学)

語学学習における内発的動機づけを高める方法 (p. 5)

Bogdan Pavliy (富山国際大学)

第3室 (3号館3階337講義室)

10:50-11:20

司会 下内 充 (東海学院大学)

対話がライティングプロダクトに与える影響 (p. 5)

佐藤雄大 (名古屋外国語大学)

11:25-11:55

司会 下内 充 (東海学院大学)

英作文指導における可算名詞と不可算名詞 (p. 6)

高橋直子 (名古屋外国語大学)

12:00-12:30

司会 木村友保 (名古屋外国語大学)

コミュニケーション能力としての流暢さと発語数の関連性 (p. 6)

飯尾晃宏 (静岡県立浜松湖南高等学校)

支部総会 13:40-14:00 310 講義室 (3号館1階)
司会 津田早苗 (東海学園大学)

特別講演 14:10-15:10 310 講義室 (3号館1階)
司会 大石晴美 (岐阜聖徳学園大学)

レトリックと文法 (p.6)

瀬戸賢一 (佛教大学)

休憩 15:10-15:20

シンポジウム 15:20-17:00 310 講義室 (3号館1階)
司会 大森裕實 (愛知県立大学)
テーマ「レトリック研究から見えてくる英語習得/教育への洞察」(p.7)

I. 転位修飾 (Transferred Epithet) —— 語感と構文

大森裕實 (愛知県立大学)

II. 応用認知言語学とレトリック

谷口一美 (京都大学)

III. 英語の快音調——頭韻をめぐって

豊田昌倫 (京都大学名誉教授)

IV. EIL としての英語習得/教育におけるレトリックへの対応——慣用表現に焦点を当てて

吉川 寛 (中京大学)

閉会の辞 17:00-17:10 310 講義室 (3号館1階)
副支部長挨拶

大森裕實 (愛知県立大学)

懇親会 17:15- 学生会館 食堂
司会 小宮富子 (岡崎女子大学)

発表要旨

第1室 333 講義室

留学時のスピーキング活動における動機付の保持と促進——大学生 JEFL 学習者を対象に

三上仁志 (名古屋大学大学院生)

渡航前の学習意欲の強さや種類が、どの様に留学時の L2 インタラクションの質・量、ひいてはスピーキング能力の発達と関係するかについて取り扱った研究は少ない (Hernández, 2010)。本研究は、英語圏への6ヶ月間の留学を行った24名の日本人大学生英語学習者の留学時の L2 スピーキング活動に対する学習意欲の変遷と学習成果との関係について、特に学習者の自律的なインタラクションの側面に注目し、分析を行ったものである。発表においては、留学期間と後期に実施されたインタビュー調査の結果を先行研究の知見と照らし合わせて解釈する事により、留学時のスピーキング活動において学習動機付けが果たす役割の一端を明らかにしたい。

留学を通じた日本人英語学習者の英語 WTC (Willingness to Communicate) の変化——限定的社交行動が WTC 及び英語使用に与える影響

三島恵理子 (中部大学大学院生)

本研究は、団体留学中の日本人英語学習者の英語 WTC: Willingness to Communicate (コミュニケーションを図る意思) の変化と、留学先での社交行動の実態を調査したものである。学習者の WTC を向上させることは、言語教育、及び留学の目的の一つであるが、多くの先行研究では、留学中の同国人の存在が第2言語使用を妨げる要因になりえることが示されている。今回の調査では、団体留学参加者52名に対し、留学前、中、後に WTC アンケート、及び一部に社交関係、英語使用を尋ねるインタビューを実施した。その結果、時間の経過に伴い WTC は高くなり、留学期間の長さは英語使用動機づけに影響していると考えられるが、多くの参加者の交友関係は、留学全体を通して同国人グループ内、及び特定のホスト人物数人 (ルームメイトや先生) を中心とした一定の範囲内であった。対友人英語 WTC は留学中に大きく向上していることから、同国人との結びつきは、必ずしも第2言語使用意欲を妨げる要因とは言えないということが示唆された。

Towards a Japanese Language Portfolio

Paul Wicking (Meijo University)

The European Language Portfolio has been used across Europe for over a decade. A number of studies have reported benefits for students and teachers alike, in terms of promoting transparency, accountability, motivation and autonomy. This presentation will suggest a format for a language portfolio tailored to the specific needs of Japanese learners. This portfolio is currently being trialled at a large private university in central Japan, in compulsory classes for non-English majors. The theoretical foundation of the portfolio will be explained, its design and implementation will be described, and preliminary results of student feedback will be presented and analyzed.

第2室 334 講義室

Designing and Creating a Variety of Classroom Materials

John Spiri (Gifu Shotoku Gakuen University)

Even with the availability of many textbooks, readers, and other teaching materials, there are compelling reasons to create your own. Homemade materials can specifically target the interests and levels of a particular group of students and be improved from year to year. From a teacher's development perspective, the process of making materials can help teachers deepen their understanding of vocabulary acquisition, become familiarized with academic websites that do tasks like vocabulary profiling, and learn how to use desktop publishing software. Ways to create handouts as well as bound materials will be described and sample final products shared.

語学学習における内発的動機づけを高める方法

Bogdan Pavliy (富山国際大学)

外国語でコミュニケーションができるようになるために、単語や文法を学ぶだけではなく、実際にその言語を使いながら学ぶ必要がある。そのために大学における外国語教育でタスク中心教授法 (Task-Based Language Teaching) がよく使われている。発表者は外国語教育で創造的なタスク中心教授法を開発している。

英語の授業で使う教科書 (例: *Reading Explorer 1, English for Tourism Grade 3*) の各 Unit のテーマに合う YouTube のビデオや動画を利用し、学生に創造力を養う課題を出す。具体的に言うと、例えばビデオを途中で止め、学生にその続きを考えてもらう。もしくは、テキストの文書を途中まで読み、その文章の続きを書いてもらう。そのような創造的なタスクを中心にした授業を行い、学生に授業の教授法に関するアンケートに回答してもらった。アンケートの結果から見ると学生はその創造的なタスク中心教授法を実施する授業について「内容をよりよく覚えらる」「よい効果があると感じている」という答えが多かった。

その理由は創造力を使い、課題を解く学生は外国語知識を増やせるだけではなく、学習者の内発的動機付けも向上し、外国語でのコミュニケーションのために必要なスキルも身につけることができるからである。

第3室 337 講義室

対話がライティングプロダクトに与える影響

佐藤雄大 (名古屋外国語大学)

今までの英語ライティング研究において、書き言葉で他者とやり取りするという対話的活動がライティング活動を促すという実践報告は多くなされてきた。しかしこういった活動がプロダクトの何に影響を与えるかという研究はそれほど進んでいない。本研究はこの点について、習熟度が同じ大学生の二グループを対象に、一つには対話的ライティング活動の英文ダイアログジャーナルライティングを、もう一つには従来型の学習者単独の英文ライティング活動を継続して実施し、そこで産出された経時的ライティングプロダクトを量的に比較した。分析の結果、対話的活動が語数を増やすことに効果を示したが、文法的複雑さには寄与しないことが分かった。

英作文指導における可算名詞と不可算名詞

高橋直子（名古屋外国語大学）

本発表では、英作文指導において気付いた「語彙が可算名詞になるのか不可算名詞になるのか判断が困難な例」を紹介し、それらをどのように説明できるかを考察する。例えば school という表現は可算名詞にも不可算名詞にもなることはよく知られていて、go to school、at school という表現では school はイディオム表現の中の不可算名詞として扱われる。しかし George W. Bush went to the public schools of Midland, Texas. と言えるように、go to (the) schools という表現も可能である。これは、名詞句内、動詞句内、あるいは文全体の構造と意味によって名詞をどう捉えるかで表現が変化するためである。このような名詞の可算／不可算、およびそれらに伴う表現について考察していく。

コミュニケーション能力としての流暢さと発語数の関連性

飯尾晃宏（静岡県立浜松湖南高等学校）

本発表は、学習者の流暢さを測るために発語数を用いて分析することが妥当であるということを検証する。そのために、タスクとしてのペア・ワークを実施したのちに、学習者のコミュニケーション能力がどれだけ向上したのかをインタビュー・テストによって評価する。その際にまず数値として扱うのは、受験者の発語数である。それと同時に、受験者のテスト・パフォーマンスを流暢さ、発音、文構造、語彙、音量、交渉力、関連性、そして目的意識の8つの観点から評価する。そして、8つの項目のうち、外見上の流暢さが発語数と最も強い相関関係があったことから、学習者の流暢さを測るために発語数を用いて分析することが妥当であるという結論を導き出す。

<特別講演> 310 講義室

レトリックと文法

瀬戸賢一（佛教大学）

レトリックと文法の研究は、グローバルコミュニケーション能力の育成を目的とする英語教育にどのような貢献ができるのか。主として3つの観点から論じたい。その3点とは、レトリック、辞書、認知文法である。

まず、レトリックの観点からは、その5部門のうち、最初の3部門である発想・配置・修辞がとくに重要である。これらは、おおよそ何をどの順序でいかなる言葉で表現するのかを担う。発想は、何をどこまで書く〔話す〕かに関係し、日英間にかなりの開きがある。読み手〔聞き手〕責任と書き手〔話し手〕責任との対立軸ともなる。配置は、contrastive rhetoricの研究領域と部分的に重なる。日本語の起承転結と英語の起展結の組み立てはどこが違うのか。修辞〔文体〕は、メタファーやメトニミーなどを含んで、意味と形式を巻き込む豊かな表現法に関わる。

次に、英語による発信に対して辞書が果たす役割を探りたい。辞書に掲載される主要な見出し語は、その大半が多義語である。多義をいかに記述するかは、辞書記述の生命線となる。しかるに『ジーニアス英和辞典』（第4版）と『ウィズダム英和辞典』（第3版）は多義語の語義を頻度順に並べるが、『プログレッシブ英和中辞典』（第5版）は中心義をまず示してそこからの語義展開を記述する。その相違のもつ理論的・実際の意義を具体例と共に論じることにする。多義は修

辞の要であり、認知言語学の中心テーマのひとつである。

最後に、認知文法ないし認知言語学が英語教育になしうる貢献について簡潔に述べたい。生成文法と対峙する usage-based なアプローチは、外国語としての英語の習得にどのような意義を持つだろうか。なぜ認知言語学はメタファーやメトニミーの研究を重視するのか。なぜ文法規則と語彙知識のみではなかなか自然な英語表現に至らないのか。「よく使われる言い回し」に慣れるにはどのような方法が考えられるのか。これらの問題について時間の許す限り論じたい。

講師紹介

瀬戸賢一（せと けんいち）博士（文学）、大阪市立大学名誉教授

1951年、京都生まれ。大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。大阪経済大学経営学部専任講師、大阪市立大学文学部助教授、大阪市立大学大学院文学研究科教授を経て、2011年より、佛教大学文学部教授。1995年～96年は、オタゴ大学（ニュージーランド）客員研究員をつとめる。

主な編著書

『プログレッシブ英和中辞典』（第5版、2012年、小学館、編集主幹）、『認知文法のエッセンス』（大修館書店、2008年、共著）、『英語多義ネットワーク辞典』（2007年、小学館、編集主幹）、『よくわかる比喩』（2005年、研究社）、『味ことばの世界』（2005年、海鳴社、共著）、『ことばは味を超える』（2003年、海鳴社、編著）、『日本語のレトリック』（2002年、岩波書店）、『認識のレトリック』（1998年、海鳴社）、『メタファー思考』（1995年、講談社）、『空間のレトリック』（1995年、海鳴社）など。

<シンポジウム> 310 講義室

レトリック研究から見えてくる英語習得/教育への洞察

最近の大学教育においては、グローバル化時代の高等教育の在り方が問われ、学士力の向上に関連する教養教育の充実が焦眉の課題となっている。しかも、グローバル人材育成と教養教育の充実の両面に深く関わるものが、外国語能力の涵養ということになる。ここでいう外国語には、21世紀の現状に鑑みると、英語が選択される蓋然性が極めて高い。加えて、中世の大学における Liberal Arts 7 学芸の基幹 3 科目が「文法学」「論理学」「修辞学」であり、それが近現代の大学教養教育に繋がっているとすれば、Rhetoric を重視しない英語習得/教育は本物とは言えないのではないだろうか。

本シンポジウムでは、Rhetoric について、認知言語学、言語学的文体論、社会言語学の視点から language in use に通底する特徴、及び（できれば）それを裏打ちする原理について考察し、language teaching/learning への応用を探究する。

I. 転位修飾 (Transferred Epithet) —— 語感と構文

大森裕實 (愛知県立大学)

かつて夏目漱石は、煩悶を繰り返した英国留学において、進化論の呪縛から解放された境地を「私は軽快な心をもって陰鬱な倫敦を眺めることができた」と「私の個人主義」(学習院での講演録)の中で記したが、the gloomy city of London は典型的な転位修飾である。本講師の大学時

代のノートには同様の事例として、I had a hasty cup of tea. = I had a cup of tea hastily. とあるが、そのようなメモなしでは、英語らしさを感じることが到底できなかったからであろう。英文学的修辞という枠組みではなく、言語学的枠組みにおいて、この transferred epithet を捉えた Robert Hall (1973) の洞察は看過できない。また、それを構文論として扱う黒田航(2011) も示唆的内容に富む。今回のシンポジウムの魁として、転位修飾を採り上げ、その分析と接近法を提示する。

II. 応用認知言語学とレトリック

谷口一美 (京都大学)

認知言語学では、Lakoff and Johnson らによる認知意味論研究により、メタファーやメトニミーといった比喻が語義拡張の主な要因であることが明らかにされている。特に前置詞については、空間的な位置関係を示すパターンであるイメージ・スキーマを使用し、その変形や非空間領域への投射によって多義性を有効に捉えられることが示されている。イメージ・スキーマ的な意味表示はすでに英語教育へも応用が見られるが、本発表では、メタファー、メトニミーおよびイメージ・スキーマの定義と機能を概観すると共に、近年発展の見られる応用認知言語学の試みを紹介し、レトリックによる意味拡張のメカニズムの理解が外国語教育において果たす役割について検討する。

III. 英語の快音調——頭韻をめぐる

豊田昌倫 (京都大学名誉教授)

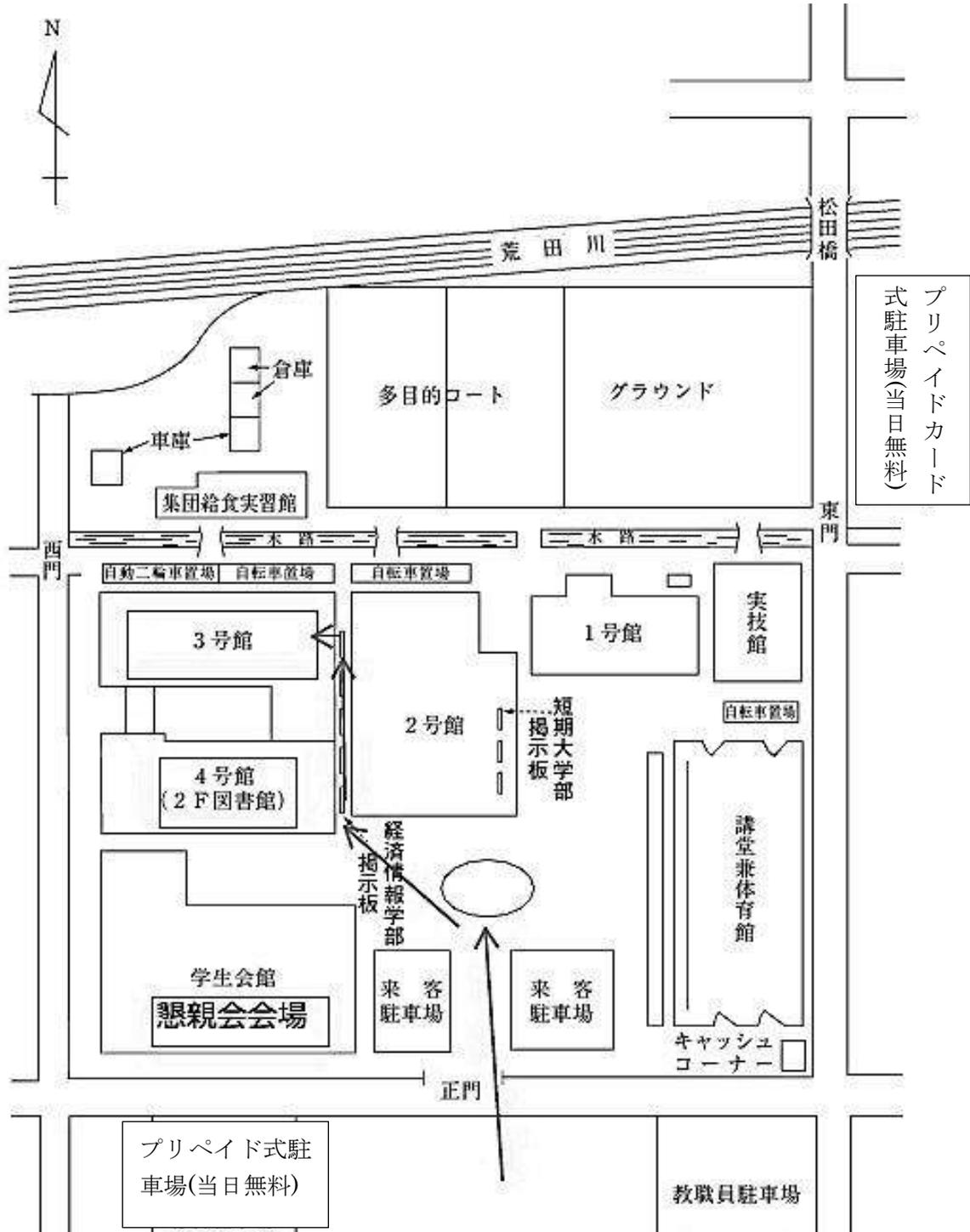
レトリックは説得を目的とした言語使用術であり、日常言語のコミュニケーションと深く関わりを持つ応用言語学の一部門である。本発表では頭韻を中心として英語の快音調 (euphony) がイディオム、ことわざ、キャッチフレーズ、新聞のヘッドライン、小説、スピーチなどで用いられている実例を示して、英米人が自然に使用する頭韻の重要性を指摘し、快音調からの英語習得/教育へのアプローチを提案する。

IV. EIL としての英語習得/教育におけるレトリックへの対応——慣用表現に焦点を当てて

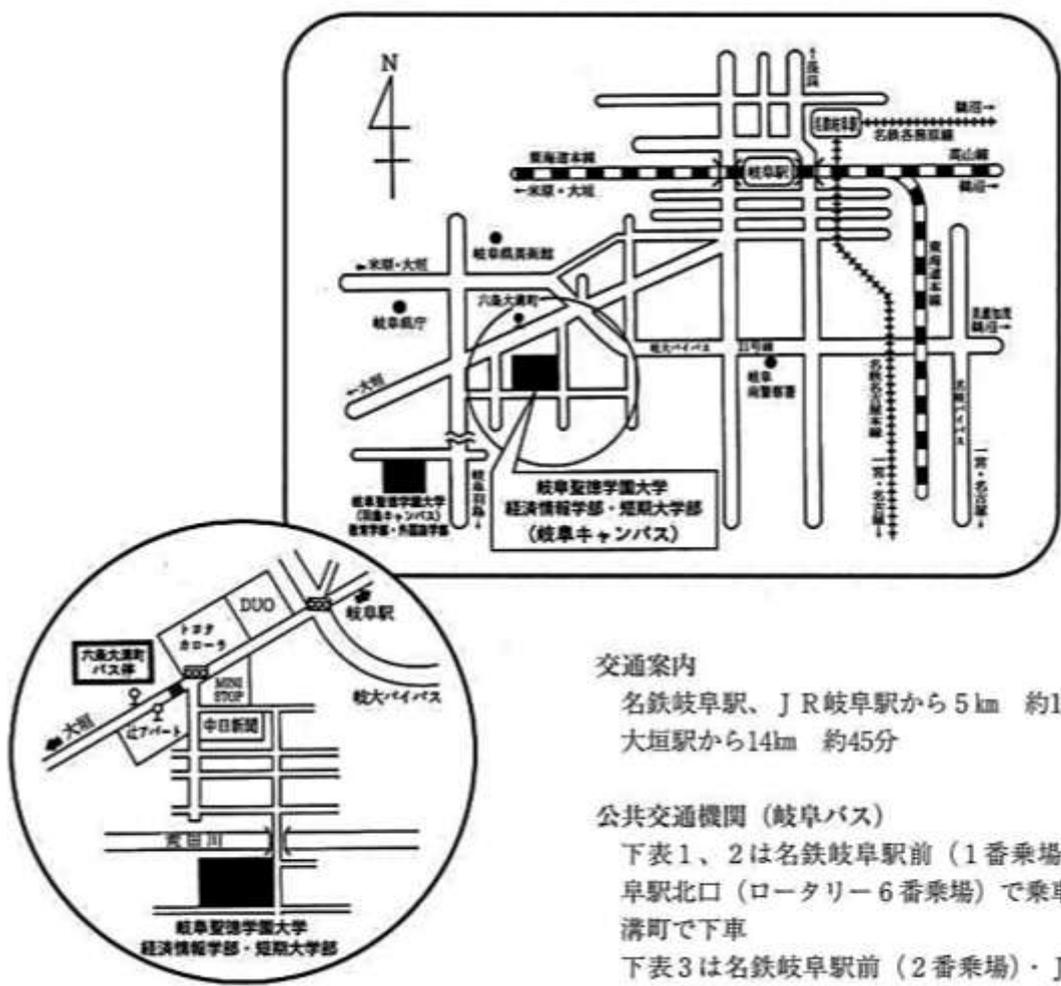
吉川 寛 (中京大学)

General American のような特定の英語変種の習得/教育を目指す場合と EIL としての英語の習得/教育を目指す場合とでは、習得/教育メソッドに大きな違いが出てくる。特に、様々な英語変種において生み出される当該文化に根差した慣用表現をどのように取り扱うかは大きな問題となる。そのような慣用表現を、コミュニケーション時に排除して表面的な情報交換にしてしまうのではなく、積極的に使用して深い相互理解をもたらすものとして捉えたい。文化を反映した慣用表現をめぐる一つの学習ストラテジーを EIL の視点から提案する。

● 大会会場 学内 マップ



● 岐阜聖徳学園大学アクセスマップ



交通案内

名鉄岐阜駅、J R岐阜駅から 5 km 約15分
大垣駅から14km 約45分

公共交通機関（岐阜バス）

下表1、2は名鉄岐阜駅前（1番乗場）・J R岐阜駅北口（ロータリー6番乗場）で乗車、六条大溝町で下車
下表3は名鉄岐阜駅前（2番乗場）・J R岐阜駅北口（ロータリー4番乗場）で乗車、東鶉又は岐阜保健短大前で下車

バス時刻表は JACET 中部支部ホームページに掲載していますのでご参照ください。
<http://www.jacet-chubu.org/taikai.html>

	路線名	行先	J R岐阜 乗り場	名鉄岐阜 乗り場	最寄り停留所
1	岐阜聖徳学園大学線	W67 岐阜聖徳学園大学又は W66 岐阜流通センター	6番	1番	六条大溝町
2	おおぶさ墨俣線	W67 岐阜聖徳学園大学又は W65 墨俣	6番	1番	六条大溝町
3	加納南線E13 東鶉	加納南線E13 東鶉	4番	2番	東鶉又は岐阜 保健短大前

● 昼食および懇親会のご案内

学内にはコンビニエンスストアもございますが、昼食弁当数が限られています。ご予約いただけますと学生会館にて販売いたします。洋風幕の内・和風幕の内（お茶付）ともに600円です。

懇親会は事前予約制です（会費4,500円）。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

幕の内弁当・懇親会の予約方法

JACET 中部支部ホームページから、5月29日までにお申し込みください。なお、締切り後のキャンセルはご容赦ください。

● 事務局より

- * JACET 会員・学生・大学院生は参加無料です。JACET 会員でない方は1000円の参加費が必要です。
- * 出版社の展示は、大教室ホール（3号館1階）でおこないます。
- * 会員休憩室は、出版社展示に面した313講義室（3号館1階）です。茶菓子を用意しています。情報交換・意見交換の場としてご自由にお使いください。
- * 発表者でPCをお使いの方は、ご自分のPCをご用意ください。各部屋とも、プロジェクターおよび音声出力の設備があり、一般的なPCとは接続が可能ですが、特殊な機器をお使いの場合はRGB変換ケーブルなど、必要なものをお持ちください。また、インターネットをお使いの方は事前に事務局までお申し込みください。
- * レジュメは各自50部程度ご用意ください。
- * 当日、中部支部役員会を開催します。役員はご参集ください。
- * 喫煙場所以外は、全館禁煙です。
- * お車でお越しの場合は、来客・職員用駐車場およびプリペイドカード式駐車場（無料）をお使いください。
- * 大会についてのご質問は、事務局アドレス（下記）までメールでお願いします。

JACET 中部支部紀要編集委員会からのお知らせ

『JACET 中部支部紀要』第11号 投稿原稿募集

締切：2013年 8月20日（必着）

詳細は、紀要10号およびホームページをご覧ください。

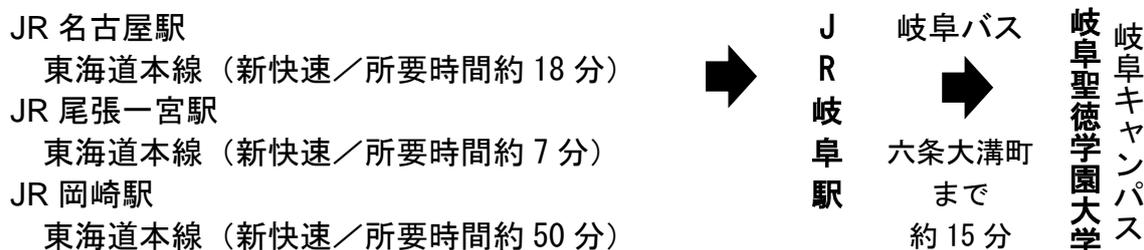
問合わせ先： JACET 中部支部事務局

一般社団法人大学英語教育学会(JACET)中部支部事務局

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 つくり領域
石川有香研究室内

ishikawa.yuka@nitech.ac.jp

● 主な駅から大学までのアクセス



● 会場までの車でのアクセス

名神高速道路

岐阜羽島 I.C. から北進 2km 「岐阜柳津」方面へ 8.5km 。洋菓子店「モンターニュ」
信号交差点を右折。「岐阜聖徳学園大学」の看板あり。（所要時間約 20 分）

名古屋方面から

R22 岐南インターを左折し、「大垣」方面へ R21 を 4.5km。「トヨタカローラ岐阜」
（岐阜市六条）信号交差点を左折し、旧 R21 「墨俣」方面へ 900m。「岐阜聖徳学園
大学」の看板あり。（岐南インターより所要時間約 20 分）

大垣方面から

旧 R21 を岐阜方面へ東進。長良川を渡り 4.5km。「岐阜聖徳学園大学」の看板あり。
（所要時間約 30 分）

JACET 中部支部

<http://www.jacet-chubu.org/>